

一
(-)

(1) 端的
(4) 鑑賞物

(2) 自明
(5) 失踪者

(3) 脅威

二
(-)

(1) 相手と関わり合う手がかりが全くない
(2) 裏表がなく素直な
(3) 言いかけたがやめて

(五) (四) (三) (二)

する 可 能 性 を 期 待 す る か ら 変 革	人 々 の 一 元 的 論 理 を 外 部 か ら 変 革	け る の と で 、 人 生 の 成 功 か ら 変 革	ら な い 理 解 不 可 能 な 異 類 で あ り 続	人 工 知 能 が 日 常 世 界 の 論 理 に 収 ま	を も た ら す 存 在 な り う る こ と 化	、 官 僚 組 織 に 対 し て は 互 い に 変 化	知 能 か ら 外 部 的 に 影 響 を 受 け る 人 が	へ 私 は 外 部 を 認 識 で き な い 人 工	な る A I に 委 ね て い る と い う 問 題 明	自 分 の 人 生 に 大 き な 影 響 を 与 え う	一 も つ に 決 め る か ら 。 さ れ る も の を	A I が 認 識 で き な い と い う も の を
--	---	---	---	---	--	---	--	--	--	---	--	---

(五) (四) (三) (二)

含 ま れ て い た こ と に 驚 い た か ら が	を 理 解 し 、 そ の に 応 え る 気 持 ち が	の 街 並 み に 喪 失 感 を 抱 き 、 今 東 京	生 ま れ 育 つ た 者 と し て 、 今 東 京	街 の 育 つ た 志 士 の 中 に 、 江 戸	西 洋 の 技 術 と 日 本 の 美 を 融 合 し た	ら 記 憶 が 遠 く の 江 戸 の 現 実 だ と 思 い 、 美 しさ の	か つ て の 江 戸 の 街 並 み の 美 しさ の	こ の 解 放 さ れ て い る 確 と い う こ と と	建 築 家 と し て 現 場 の 職 人 た ち と よ	退 官 を 望 む 同 僚 た ち の 陰 險 さ に 対	妻 木 を 称 賛 し 、 陰 險 さ に 対	(3) 言いかけたがやめて (2) 裏表がなく素直な (1) 相手と関わり合う手がかりが全くない
---	---	---	--	---	---	---	---	--	---	---	--	--

三 (一) 父八の宮の喪中が不都合な折なので

(2) 風情のある筆跡

□ (ほんとうに、風情も何もわからない様子で、宮様へのお返事をしないことが度重なり、してしまうのも失礼なので、やはり今回はお返事申し上げなさい)

大君が詠んだ、まがきの側で鳴く
鹿のよりに、父の死の悲しみに
妹で泣き暮れた、いと、うさげに、姉

句宮の宇治からの返事を起す
待ちの、その返事を長時見続ける
ようにな、姫君達に執心する様子

句宮との距離の取り方に迷い、
分たちを心配して、いけなさと、
魂に傷をつけて、こいけな気が引けた
かてら。返事をするこいけな気が引けた

四 (一) 反乱を起さそうとしており(一)

(2) 後を継ぐ子供に恵まれなかった(一)

(ア) せいはおうのじにたり(一)

(イ) いまだいくばくならずして、はたしてそのげんにおう

す。

(二) 占いの結果の精度は父に劣らないもの
だったが、一日に一字を占うわけでは
なかった。

顔が占断に従い拒絶したこと。
吳三桂の十万兩借用の要請を慕天

子ができかたの字に基づき占う
よいう頼まれたが、武は一と代か
ら人頼み除く形で止むかの
え、一代断しがたいから。
え、一代断しがたいから。